

2017年3月10日

関西学院評価推進委員会
委員長 田淵 結
(関西学院 院長)

2016年度関西学院大学自己点検・評価結果について

関西学院大学の2016年度自己点検・評価結果（「理念、目的、教育研究目標、方針等の検証および目標、行動計画の進捗評価」）を公表いたします。

2016年度の自己点検・評価では、2015年度に策定しためざす姿(目標)と行動計画について、進捗状況の評価を行いました。ただし、大学執行部と機構・センターにおいては、2015年度にそれぞれが目標を策定し、本来一体的な取り組みがなされるべき両者の間で目標の整合性を欠いたため、まずは両者の目標を全学的な視点で整理し直したうえで評価を行いました。

さて、関西学院では、内発的で自律的な発展への循環過程（PDCAサイクル）を強化するため、認証評価と連動させた自己点検・評価を毎年行う制度（「新たな自己点検・評価」）を2004年度に構築しました。そして、2006年度には大学基準協会による第1回目の機関別認証評価を受け、「適合」の認定を得ました。

2009年度には大学基準協会の評価基準などの変更に伴い評価項目を見直すと共に、目標を再設定し新たに2013年度まで5年間の目標に取り組み、2014年度には再設定した目標の5年間の進捗状況についての総括を行いました。その間、2013年度には第2回目の機関別認証評価を受け、「適合」の認定を得ました。

ここまでの本学の自己点検・評価は、PDCAサイクルを機能させる先駆的な取り組みとして文部科学省や大学基準協会、他大学等からもヒアリングを受けるなど高い評価を得ましたが、課題がなかったわけではありません。

課題を受けて、目標は社会情勢や環境の変化に応じて柔軟に対応できるよう、変更するプロセスを組み込み、各種方針等に盛り込むべき要件を提示することで、部局間で統一感を持たせようとしてきました。

2015年度からの自己点検・評価は、大学基準協会が「大学に共通して求められる学校教育法や大学設置基準等の法令要件が遵守されているかどうかの評価(基盤評価)」として示している教育の質の保証は当然のことながら、第三期認証評価の方向性にも示されている、内部質保証システムを有効に機能させることにより、教育研究の質の向上を果たそうとするものです。

実施方法についても、第三期認証評価の視点や、大学、学部等部局の意見も組み入れながら、内部質保証の仕組みそのもののPDCAサイクルを機能させ、より良い自己点検・評価制度を構築しているようにしています。

これからの自己点検・評価の取り組みは、高次で自律的な、教育研究の質向上に繋がられるものにならなければなりません。

なお、報告書(帳票)をご覧いただき、お気づきの点等がございましたら、事務局までご意見をお寄せください。

以上

自己評価事務局：関西学院評価情報分析室
jikohyouka@kwansei.ac.jp